

## 家政学を学ぶ学生の食生活の調査

○小菅充子 大島文枝（和洋女子大）橘 庸子 柳沢幸江（和洋女子短大）

調理学の授業を進めるに当たり学生の食生活を把握することが重要と考え、平成4年と平成7年の4月に食事等に関するアンケート調査を行った。対象は大学家政学部と短期大学家政科（共に生活及び被服）の調理学実習を履修している学生で、計1267人である。

食事の現状調査の結果、3食を取っている者は約85%で、このうちの約7割は間食も取っていた。また朝食を抜いていた者は約9%であり、これらの値は家族構成、母親の就職の有無とも関係していると思われる。外食の利用回数には年による変化は殆どなく、夕食を外食で済ますことも多い者も30%を越しており、アルバイトの関連が考えられる。ダイエットについては、現在行っている者は7%であったが、過去に行ったことのある者は、平成4年には34%、7年には49%とダイエットが若年化の傾向にあることを推測させた。

嗜好に関する調査では、いずれの年も好きな食べ物の1位はスパゲッティで、嫌いな食べ物の1位はセロリであった。普段よく飲む飲み物は緑茶、烏龍茶、牛乳の順であった。

家庭における調理の調査では、味噌汁、焼き魚、カレーライスが家でよく食べ、調理もしている。天ぷら、コロッケは家で食べる頻度はほぼ同じであるが、天ぷらは家で調理することが多く、コロッケは調理したものを購入することが多い。また寿司も購入することが多い料理である。調理器具では、平成7年にすりばち、裏ごし器、盆ざるの保有率がかなり減少したが、浄水器の設置が増加した。また市販の水を購入する者が多くなった。

基本的な配膳が出来るか否かの調査では、飯・味噌汁・箸の配置がおかしかった者は約20%であったが、新入生の比較では被服専攻の学生において割合がかなり高かった。